

音楽の深さ、凄みにいまこそ出会いたい 近代ロシア・チェロ曲の金字塔から、ユダヤの旋律が歌い上げる魂の歎びまで

© Satoshi Aoyagi



“ヴェルヴェット・トーン”と呼ばれる類まれな美音で“世界最高のチェリスト”と評されるイッサーリスが、横浜の「木のホール」神奈川県立音楽堂で独自のプログラムによる室内楽プロジェクトを行う。力強い重低音から輝くような高音まで聴く人の心を揺り動かす変幻自在な表現。歴史に埋もれた曲を発掘し、よく知られた名曲との全く新しい出会いを聴く人にもたらす独自のテーマプログラム。彼が2000年代初頭にやはり横浜で行ったプロジェクトは伝説となった。

各地の音楽祭や名ホールで世界の頂点を極める名手たちと共に演するイッサーリス。今回の仲間は、各国の室内管弦楽団のコンマスや指揮者としても活躍する名ヴァイオリニスト、アンソニー・マーウッド、ソリストとして世界で活躍するピアニスト、コニー・シー。エネルギーッシュな演奏スタイルで知られ、長年共演を重ねて信頼で結ばれた音楽仲間たちのめくるめくセッションは手に汗握るものに違いない。

テーマはイッサーリス自身のルーツに連なる「ロシア」。近代チェロ・ソナタの金字塔として双璧をなすラフマニノフとショスタコーヴィチはもとより、イッサーリス自身が「エキサイティングで力強い名曲。もっと聴かれてほしい」と語るカバレフスキイを加えた3曲のソナタは必聴。三重奏曲は、ユダヤ人の友を追悼したショスタコーヴィチの曲、伝統舞曲の豊かな響きが楽しめるロソフスキイの曲など全く違う性格のユダヤの音楽が味わえる2曲、哀切に満ちたラフマニノフの「悲しみの三重奏曲第2番」と、どれも聴き逃せない。そして、ロシアを代表するピアニストの一人だった祖父ユリウスがカザルスに捧げた珠玉の「バラード」。ガット弦で知られるイッサーリスだが、今回はカバレフスキイなどワイルドな奏法を要する曲のために持参するスチール弦を張ったモンタニャーナ・チェロも注目。繊細さとパワーを兼ね備えた演奏が期待される。

室内楽の深い歎びを新たに発見する二日間、さらに「曲目解題コンサート＆マスタークラス」とあわせて三日にわたる特別プログラム。世界がゆれ動く今こそ、深く真剣な音楽の凄みに向かいあいたい。

*新型コロナウイルス感染予防策へのご理解・ご協力の程お願いします。*ご来場前にチケットの半券（短い側）の裏面にお名前（カタカナ）、緊急ご連絡先をご記入の上お持ちください。*本公演では必要な感染症拡大防止対策をとることにより安全が確保できることから、座席を一つおき配置にはしておりません。予めご了承ください。*今後の感染状況、政府及び神奈川県の方針等により公演実施や感染防止対策の方針が変更となる場合は、隨時、音楽堂オフィシャルサイト、SNS等でお知らせします。

© Satoshi Aoyagi



スティーヴン・イッサーリス《チェロ》 Steven Isserlis, cello

イギリス生まれ。現代最高のチェリストの一人。世界屈指の指揮者らのもと、ベルリン・フィルやワイン・フィルをはじめとする超一流のオーケストラと共に演を続けている。室内楽にも力を入れ、様々な名手らとザルツブルク音楽祭をはじめとする場で演奏している。歴史的奏法にも深い関心をよせ、古楽器のオーケストラ、チェンバロやフォルテピアノ奏者との共演も多い。同時に現代音楽の支持者でもあり、タヴァーナやアデス、クラークらの作品初演も任せられてきた。録音も数多く、最近ではJ.S.バッハの無伴奏チェロ組曲全曲や、エルガー＆ウォルトンのチェロ協奏曲など多くの賞を受賞。若き聴衆のための活動にも情熱を傾け、子どもたちに向けて執筆した2冊の本は、多くの国の言語に翻訳されている。

© Walter van Dyck



アンソニー・マーウッド《ヴァイオリン》 Anthony Marwood, violin

マーウッドは国際的に定評のあるヴァイオリニストで、昨シーズンはロンドン・フィル、スペイン国立管、ミルウォーキー響などと共に演。2016/17年シーズンにはノルウェー室内管のアーティスト・イン・レジデンスを務めた。同時代の音楽にも力を入れ、彼のためにT.アデスをはじめ、多くの作曲家が新作を書いている。録音も多く、ブラビンス指揮BBCスコティッシュ響とのウォルトンのヴァイオリン協奏曲は50枚目のアルバムとなった。ソリスト以外でも引く手あまたで、カナダ室内管やレ・ヴィオロン・デュ・ロワの首席芸術パートナー、ピースマーチ室内楽音楽祭の共同芸術監督の地位にある。2018年の新年に女王エリザベス2世から大英帝国勲章MBE(団員)を授与された。

© Connie Shih



コニー・シー《ピアノ》 Connie Shih, piano

カナダ生まれ。1993年、30歳以下の最も優れたクラシック・アーティストに贈られるシルヴァ・ゲルバー賞を受賞。9歳でシートル交響楽団とメンデルスゾーンのピアノ協奏曲第1番を共演してオーケストラ・デビューを飾る。ソリストとして、カナダ、アメリカ、ヨーロッパ各地のオーケストラと幅広く共演し、ソロ・リサイタルもカナダ、アメリカ、アイスランド、イギリス、スペイン、イタリア、ドイツ、さらに中国で数多く開いている。また、室内楽もタペア・ツインマーマン、イザベル・ファウストなど多くの世界的な音楽家たちと演奏し、中でも、チェロのスティーヴン・イッサーリスとの度重なる共演は高く評価されている。

関連企画

スティーヴン・イッサーリス 公開マスタークラス&曲目解題コンサート

2021年1月29日[金]18:30

横浜市神奈川区民文化センター かなっくホール <http://kanack-hall.info/>
スティーヴン・イッサーリス、コニー・シー(ピアノ)

長谷部一郎(「曲目解題コンサート」聞き役／東京都交響楽団チェロ奏者)

公開マスタークラス受講生：北村陽・笛沼樹(カルテット・アーピーレ)

全席指定：一般3,000円 票未就学児入場不可

かなっくホールチケットデスク(045-440-1219)

主催：横浜市神奈川区民文化センター かなっくホール(指定管理者：横浜メディアアド・清光社共同事業体)



木のホール

神奈川県立音楽堂

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

TEL.

045-

263-

2567

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

JR「桜木町」駅(南改札西口、北改札西口)・

市営地下鉄「桜木町」駅(南1番出口)から徒歩10分

京浜急行「日出町」駅から徒歩13分

みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩20分



開場・開演に合わせて 無料バスを運行

1月30日[土]31日[日]出発時間

①13:55 ②14:10

③14:25 ④14:40

*運賃無料、予約不要、当日先着順。満席の場合、ご乗車いただけない場合もございます。予めご了承ください。*発車場所はJR「桜木町」駅バスターミナル「タクシー降車場」奥、乗車口横に「神奈川県立音楽堂」の掲示があるバスの貸切運行。*終演後の帰路運行はありません。